

## 2023 青森市長選挙選挙 立候補予定者への 公開質問状 回答 (50音順)

### 質問 1

現在のCO2排出量が続いた場合、1.5℃以上の気温上昇までの時間的なリミットが6年となっており、早急な脱炭素化への取組の加速が、将来における気候変動による被害を防ぐために必要と国連・科学者が強く警鐘しています。

**青森市として、脱炭素社会を実現するために実施していきたい具体的な政策を教えてください。**

#### <大竹さん>

- ① 古くなった「温暖化対策実行計画」の見直し
- ② 全ての分野のスローダウン、スケールダウン
- ③ ゼロカーボンシティ宣言

#### <関さん>

公用車のEV普及促進、公施設の建て替え時に屋根置き太陽光の設置、雪が少ない地域における一般住宅屋根置き太陽光の設置。水質、景観を考慮してゾーニング。市民意識を向上するため市民の皆さまと理解を深める勉強会の実施

#### <西さん>

再生可能エネルギーの導入や省エネ対策に取り組むモデルエリアを設定  
環境に配慮した持続可能な街づくりへ進化させるべく検討してまいります

#### <野崎さん>

積雪寒冷地である青森市において、CO2 排出量が最も多くなるのは、暖房等を利用する冬期間であると想定されます。

寒い時期を乗り切るためには暖房は欠かせませんし、安全な雪処理のためには適宜融雪装置等を活用する必要があります。

安全安心で快適な雪国生活を実現するためには、一定量の化石燃料の消費は避けられません。

では、雪国青森市は脱炭素に向けて無策なままで良いのか。私はそうは思いませんし、そうであってはならないと考えています。

脱炭素社会の実現は一朝一夕で実施できるものではありませんし、これをやれば万事解決といった特効薬があるわけでもありません。地道な努力の積み重ねによって実現されるものです。

一定量の化石燃料の消費が必要な雪国青森市において実施するべき取り組みは何か。

私が市長としてまず取り組むべきは、エネルギー消費の効率化であると考えます。

具体的には、高断熱・高气密の克雪住宅の普及促進です。これについては、以前から青森市において取り組まれている内容ですが、この取り組みにもっと本腰を入れるべきです。

断熱性能の高い住宅であれば、冬場の暖房効率が上昇し、結果として CO2 排出量が減少します。

加えて、夏場の冷房効率も上昇しますので、年間を通じて CO2排出量を抑制することができます。

脱炭素社会の実現については、誰もが必要な取り組みであると認識していることと思いますが、何から手を付ければよいのか、自分にできる取り組みは何なのか明確なイメージが湧きにくいと感じている方が多いのではないのでしょうか。

このような市民の皆様に対して、より具体的な取り組み方法を提示して、これを市の施策として 推進するための仕組み作りを行うこと、これが行政組織である青森市が、脱炭素社会実現のためになすべきことと考えています。

## 質問2

青森にある資源を利活用していく事が、循環型社会を実現し、地元経済の成長につながると考えております。例えば、地元産のたい肥による有機農業や地産地消の推進、また、エネルギーに関しても、雪発電や、小水力発電、波力発電、地熱利用などの推進もあると考えられます。

**青森市のどのような資源を利活用していきたいか、お考えを教えてください。**

### <大竹さん>

農地ソーラーシェアリング  
(洋上風力)

### <関さん>

海流発電、雪発電  
ゴミ軽減化が本市において進む中のさらに軽減化をして温室効果ガスの減少に取り組む

### <西さん>

まさに①の回答における具体的な方向について各種の選択肢を検討してまいります  
生ごみの回収及び利活用におけるモデル地区についても検討してまいります

### <野崎さん>

青森市においては、閉鎖海域である陸奥湾の水質を保全することを目的の一つとして、公共下水の整備を進めてきたと聞いています。

現在青森市では、公共下水道の終末処理場として八重田浄化センターと新田浄化センターの2か所が稼働しており、各家庭や事業所等から排出された汚水を処理しています。

この処理の過程で発生する污泥は、水分を取り除かれ「脱水ケーキ」と呼ばれる状態になり、その大半が清掃工場で焼却処分されているようです。また、この焼却処分には毎年相当額の費用が投じられているとも聞いています。

ある自治体では、この脱水ケーキを家庭菜園用の肥料として無償提供しているそうです。また、ある自治体では、脱水ケーキの成分検査等を行い正式な「農業用肥料」として販売する取り組みを実施しているそうです。

例えば、この脱水ケーキの肥料化が実現した場合、資源の地域内循環が行われるだけでなく、運搬時や焼却処分時に排出されていたCO2の削減など脱炭素社会の実現にも寄与するものであります。

循環型社会を実現し、地元経済の成長につなげるためには、現状地域において価値がないとして廃棄処分されているモノに着目し、何かに転用できないか、新たな価値を生み出すことはできないかと思案する姿勢が重要なのではないのでしょうか。

そして、生み出された新たな価値が、他県や都心部で享受されるのではなく地元で活用される、このような枠組み作りが必要です。

### 質問3

ゼロカーボンシティ宣言の表明の請願が、2021年にすでに青森市議会にて採択済みです。  
**ゼロカーボンシティ宣言の表明についてのお考えを教えてください。**

#### <大竹さん>

早期に実現します

#### <関さん>

ゼロカーボンとは市民意識、民間意識を高めるために重要なことと考えるため検討していきたい。

#### <西さん>

採択された請願書を再確認し、その具現化に向けて検討されるべきと考えます。

#### <野崎さん>

現状の青森市におけるCO2 排出量や、森林等による CO2 吸収量についての詳細を把握していないため、現段階において、ゼロカーボンシティ宣言の表明について詳細をお答えすることは困難です。

せっかくのお尋ねに回答できず、申し訳ございません。

### 質問4

市民の多様な視点と意見を取り入れる事で、脱炭素の街づくりが進むと考えています。  
**青森市として「気候市民会議」の開催についてのお考えを教えてください。**

#### <大竹さん>

賛成です

#### <関さん>

市民意識向上のために必要と考える。

#### <西さん>

市民の意見やアイデアを集める事ができ、非常に有意義な取り組みだと思います  
またご指摘の通り市民自らが気候問題について考えるきっかけにもなります

#### <野崎さん>

ご質問にも記載されている通り、今後脱炭素の街づくりを進めていくにあたっては、市民の皆様の多様な視点と意見が必要不可欠です。

そして、市民の皆様がそれぞれの立場から意見を交わすことができる議論の場を設けることも重要な取り組みであると理解しています。

先日公表した 51項目のマニフェストをはじめとする様々な施策について、着実にその取り組みを進めていくためには、市職員のみならず市民の皆様にもその担い手となって頂き、思う存分活躍していただく必要があると考えています。

お尋ねの「気候市民会議」の開催についてですが、将来的には必要な会議体の一つであると認識しておりますが、青森市としてこの会議体を設置することは、現段階では時期早々ではないかと感じております。

## 質問5

当選された場合、青森市長として今回の質問状と同時に提出した、「気候変動政策に関する提案・要望書」の内容について**意見交換会の機会をご検討いただけますか？**

＜大竹さん＞

・検討したい

＜関さん＞

・検討したい

＜西さん＞

・検討したい

＜野崎さん＞

・回答なし